

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	地域子育て支援拠点事業			事業番号	06-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	子ども部	齋藤 浩人	子育て支援課	天野 勝彦	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち		
		基本政策	2	子どもの成長をみんなで見守るまちづくり		
		施策展開の方向	3	子どもを産み育てやすいまちをつくる		
		施策	6	子育て家庭への支援の充実		
予算事業名	子育て支援センター事業費					
事務区分〔選択〕	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	努力規定がある		
事業開始年度	開始年度	平成9年度	～	終了年度	—	
関連法令等	児童福祉法、子ども・子育て支援法、次世代育成支援対策推進法、地域子育て支援拠点事業実施要綱					
国・県の計画等	子ども・子育て支援法に基づく基本指針、かながわ子どもみらいプラン			計画期間	平成27年度～平成31年度(県計画)	
関連個別計画	伊勢原市子ども・子育て支援事業計画			計画期間	平成27年度～平成31年度	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	子育ては楽しく充実したライフステージですが、親としての責任の重さや社会生活との両立などから、不安や孤立感を感じることもあります。また、核家族化や地域とのつながりの希薄化により、周囲に子育ての手助けを求めづらくなっています。このようなことから、子育て中の親子が気軽に集い、地域とつながりながら育児を楽しみ学ぶため、支援拠点である「子育て支援センター」の設置・運営が必要です。					
目的 (何をどうしたいのか)	子育て支援センターの運営を通じて、子育て中の親子に対して、相互交流や子育てアドバイザー等との相談の場を提供し、仲間づくりや育児不安の軽減等を通じて地域の子育てを支援します。					
主な対象 (誰・何を対象に)	保護者と児童(主に就学前)					
事業内容 (手段、手法など)	・子育て中の親子が気軽に集える場として、センター拠点「フリースペース」、サテライト拠点「つどいの広場」、デリバリー拠点「子育てひろば」を運営するとともに、「つどいの広場」の増設に取り組みます。 ・運営協力者である子育てサポーター連絡会と連携しながら、フリースペースの拡充を進めます。 ・子育てに関する講座の充実等に取り組むとともに、新たに子育てワークショップを開催します。					
事業行程	項目	年度				
		平成30年度		令和元年度	令和2年度	
		つどいの広場の設置		2箇所で開催増設検討	2箇所で開催1箇所増設準備	1箇所増設し3箇所で開催
		子育て支援センター(フリースペース)の拡充		行政機能の再配置に基づく機能等の拡充検討	行政機能の再配置に基づく機能等の拡充検討	拡充実施
		子育てワークショップの開催		開催内容検討	子育て支援センター1箇所で開催開始	実施 拡大開催の検討
目 標	【指標名】	【現状値】	年度			
			平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	つどいの広場の実施箇所数	2箇所で開催(平成29年度)	2箇所で開催	2箇所で開催	3箇所で開催	

事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)					
実施方法 〔選択・記入〕	☐ すべて直接実施 ☒ 左記以外				
	☒ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者	伊勢原市子育てサポーター連絡会 「つどいの広場(なるせ)」のみを業務委託	
	☐ 補助金		補助先		
	☐ その他		具体的内容		
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	つどいの広場の設置	2箇所で開催 増設検討			
	子育て支援センター(フリースペース)の拡 充	行政機能の再配置に 基づく機能等の拡充 を検討			
	子育てワークショップの開催	開催内容を検討			
実施した取組の内容	センター拠点である「フリースペース」、サテライト拠点である「つどいの広場」、デリバリー拠点である「子育てひろば」を運営し、親子が気軽に集える地域の子育て支援拠点としての役割を担いました。				
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	つどいの広場の実施箇所数	2箇所で開催 (平成29年度)	2箇所で開催		

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績			
	事業費合計 (a)		11,038		千円	0		千円	0		千円	0		千円
	内訳	国県支出金 ①	7,358		千円	0		千円	0		千円	0		千円
		地方債 ②	0		千円	0		千円	0		千円	0		千円
		その他特財 ③	0		千円	0		千円	0		千円	0		千円
		一般財源 (a)-①-②-③	3,680		千円	0		千円	0		千円	0		千円
	国県支出金の内容		子ども・子育て支援交付金 補助率:国1/3, 県1/3, 市1/3											
	その他 特財の 内容	受益者負担	○ 有 ● 無			前回の改定時期								
		その他												
	人件費	正規職員	1.3	人	11,063	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)	1.3	人	11,063	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	トータルコスト (a)+(b)		22,101			千円	0		千円	0		千円	0	
単位 当たり コスト	対象 数	定義	保護者と児童(主に就学前)			単位			単位			単位		
		対象数	26,588			延人								
		総事業費 ／対象数	831			円			円			円		

評価 (Check) へ

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	☒ 計画どおり (A) ☐ 概ね計画どおり (B) ☐ 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	地域の子育て支援拠点として、フリースペースやつどいの広場、子育てひろばを運営し、孤立しがちな母親の育児相談の対応や子育てに関する情報提供を行いました。 また、子育て中の母親の不安感や孤独感を緩和するために、様々な相互交流の場を提供し、交流の促進を図ることで子どもの健やかな育ちを支援しました。
実施水準 〔選択・記入〕	☐ 他市より高い水準で実施 (A) ☒ 他市と同水準で実施 (B) ☐ 他市より低い水準で実施 (C) ☐ 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	子育て支援センターは、厚生労働省の通達や児童福祉法の規定に基づき、県内各市等に設置されており、事業内容的にはほぼ同様となっています。 <参考>直営:伊勢原市、厚木市、海老名市(1か所)、綾瀬市(3か所)、愛川町 委託形式:大和市、座間市(3か所)、海老名市(2か所)
有効性 〔選択・記入〕	☒ 高い (A) ☐ 普通 (B) ☐ 低い (C)	A	左記判断理由	本事業は、子育てアドバイザー(保育士等専門職)や子育てサポーター(地域ボランティア)、児童委員の助言や援助、利用者同士の交流によって子育て不安を解消・軽減できており、地域全体で子育て支援環境の充実を図る上でも有効な事業となっています。
効率性 〔選択・記入〕	☒ 効率的に実施されている (A) ☐ 改善の余地がある (B) ☐ 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	子育てサポーターや児童委員との連携・協力体制により、地域の特性や実情を踏まえた、効率的な子育て支援環境の醸成を図っています。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	☐ 現状のまま継続 ☒ 見直しの上継続	事業推進上の課題	実施会場である、市役所分室や石田西集会所、比々多保育園等については、公共施設等総合管理計画等に基づき、今後の利用や管理方法等について、施設所管部署等との調整を図る必要があります。 また、総合計画において予定している「つどいの広場」の増設については、平成2年度の開設に向けて準備を進める必要があります。
令和元年度取組方針		・現在の実施場所のうち、石田西集会所や比々多保育園については、利用や管理上の課題を整理した中で、施設主管部署等との調整を図りながら在り方の検討を進めます。 ・子育てサポーターとの連携・協力体制の更なる充実を図りながら、運営内容の見直し等も含め、地域に根ざした事業運営を進めます。 ・令和2年度のつどいの広場の増設に向け、場所や費用、人員配置などの準備を行います。		
所管部長による総評		子育て支援センター事業は、孤立しがちな親子が気軽に集える場であり、情報共有や育児不安の解消などの重要な役割を担っています。 子育て世代が本市を選び、安心して子育てのできるまちづくりを推進する上においても、大変有効な施策のひとつであることから、今後も市民のニーズに寄り添いながら、事業の充実に取り組んでいきます。		